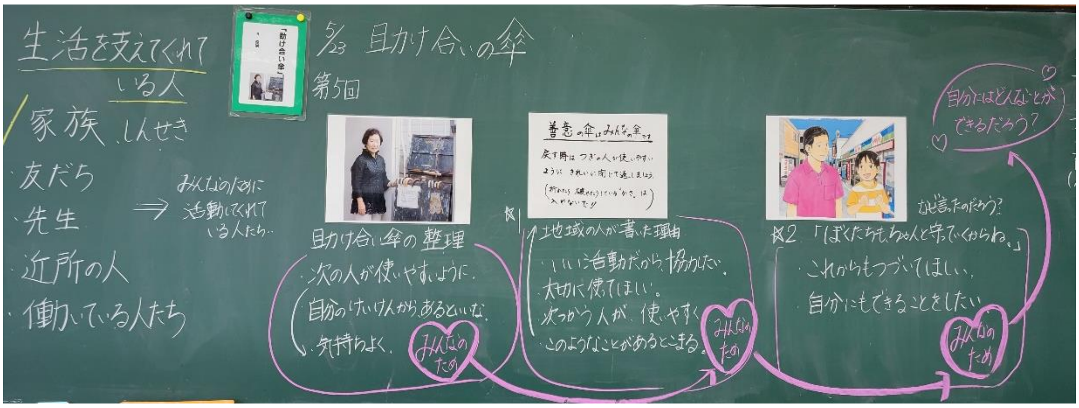
道徳だより 6

５／２３（月）

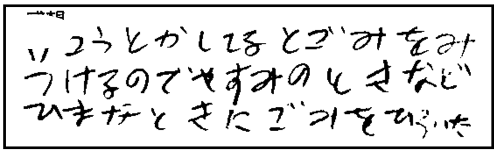
「助け合い傘」の授業から

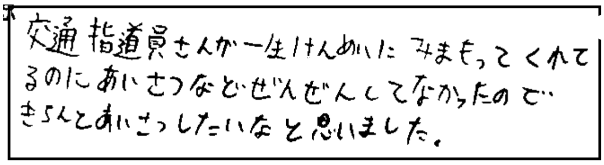
「多くの人に支えられて自分が生きていることが分かり、それに感謝し、応えようとする。」というねらいで授業を行いました。自分たちの生活を支えている人について話し合い、支えてくれている周囲の人への思いを考えました。

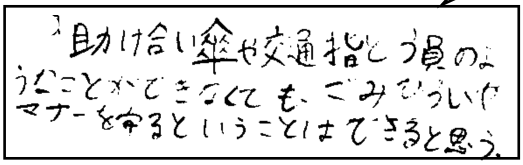
地域でつなげてき「助け合い傘」の活動に対して共感する子どもたちも多く、感謝の気持ちから生まれた「みんなのために」という思いが、人から人へと受け継がれていることに気付きました。そして、自分たちの生活の中にも地域で支えてくれている人がたくさんいることから、みんなのために活動している人の思いと自分にできることを考え、話し合うことで、それぞれの思いを膨らませることができました。

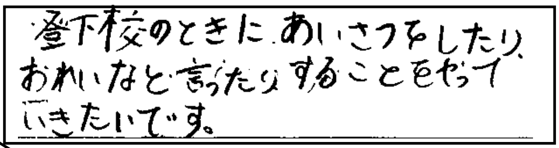

生活を支えてくれている人
家族 しんせき
・友だち
・先生
・近所の人
・働いている人たち
⇒ みんなのために活動してくれている人たち…
「助け合い傘」
5/23 助け合いの傘
第5回
善意の傘はみんなの傘です
戻す時は つぎの人が使いやすいように きれいに閉じて返しましょう。
（折れたり 破れたりしている"かさ"は入れないで!!）
助け合い傘の整理
・次の人が使いやすいように。
・自分のけいけんから、あるといいな。
・気持ちよく。
みんなのため
※1
地域の人が書いた理由
・いい活動だから協力したい。
・大切に使ってほしい。
・次つかう人が、使いやすく
・このようなことがあるとこまる。
みんなのため
なんと言ったのだろう？
※2「ぼくたちもちゃんと守っていくからね。」
・これからもつづいてほしい。
・自分にもできることをしたい
みんなのため
自分にはどんなことができるだろう？

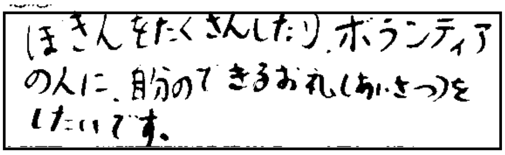
☆子どもたちのワークシートから☆
「自分にはどんなことができるか」を今までの自分をふり返りながら考えました。


いっこうとかしてるとごみをみつけるのでやすみのときなどひまなときにごみをひろった


交通指道員さんが一生けんめいにみまもってくれてるのにあいさつなどぜんぜんしてなかったのできちんとあいさつしたいなと思いました。


「助け合い傘や交通指どう員のようなことができなくても、ごみひろいやマナーを守るということはできると思う。


登下校のときに、あいさつをしたり、おれいなど言ったりすることをやっていきたいです。


ぼきんをたくさんしたり、ボランティアの人に、自分のできるお礼（あいさつ）をしたいです。